

# 防災の担い手役割紹介

## 静岡文化芸術大 教員が研究成果

静岡文化芸術大(浜松市中区)の教員有志は20日、災害に強い地域づくりのために住



研究成果を発表する教員ら

＝浜松市中区の静岡文化芸術大

民、行政、大学が果たすべき役割や連携策をまとめた研究報告会を同大で開いた。行政学、経営学、社会学などを専門にする教員5人がそれぞれの視点から提

言した。大学の役割を考えた河村洋子准教授(ヘルスコミュニケーション)は同大で実践した学生が講師として中学校に出向く防災教育に触れ、学生の自主的な備えを促すなど「広い効果があった」と強調した。「地元で大規模災害が起きれば大学は支援に関わることになる。防災に関して学生が力を付けるのは重要」と話した。

集落を出て周辺に住む転出者を防災の担い手として注目。転出者の帰省頻度と集落での共同作業参加を増やす仕組みを考え、家族をベースにした共助の体制の整備を呼び掛けた。教員5人は2018年度から2年間、同大の助成を受けて研究に取り組んだ。(浜松総局・柿田史雄)

中山間地の防災をテーマにした船戸修一准教授(社会学)は人口減少や高齢化が進む